

地域福祉に関するアンケート調査結果（民生児童委員）

1 対象者

小樽市民生児童委員協議会 40 名（地区会長 16 名、副会長 24 名）

2 調査方法

調査票は小樽市民生児童委員協議会事務局（社会福祉法人小樽市社会福祉協議会内）を通じて配布、回収は郵送方式

3 調査期間

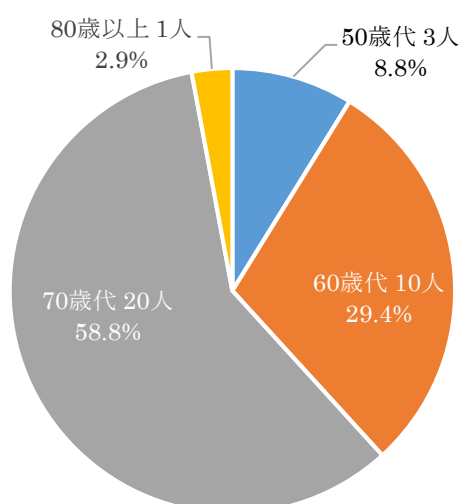
令和 2 年 5 月 29 日から令和 2 年 6 月 26 日まで

4 回収件数及び回収率

34 件（85.0%）

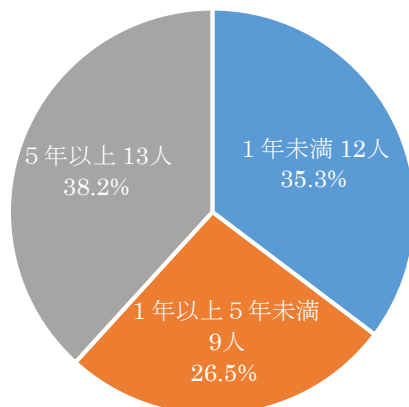
問 1 年齢 【単一回答】

年齢については、「70 歳代」が 58.8 % と最も多く、「60 歳代」が 29.4% で次いでおり、『60 歳以上』が 9 割以上を占めている。



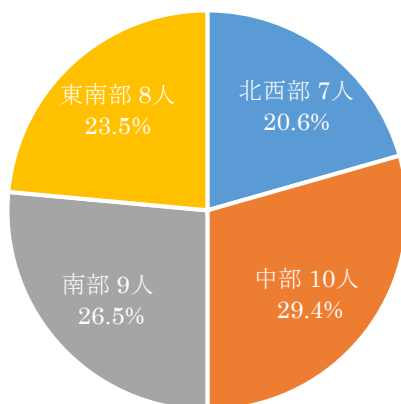
問2 在職期間（現職） 【単一回答】

昨年度に民生児童委員の一斉改選が行われており、「1年未満」が35.3%を占めているが、「5年以上」が38.2%で最も多い。



問3 居住地区 【単一回答】

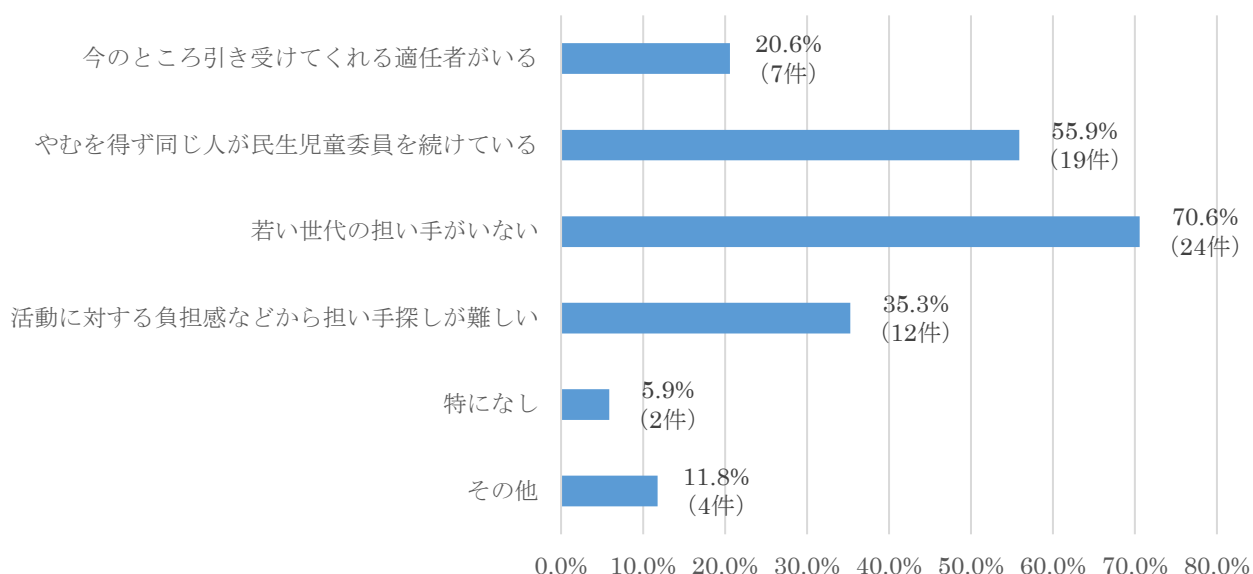
居住地区については、「中部」が29.4%と最も多いが、ほぼ均等の割合といえる。



北西部	忍路、塩谷、桃内、蘭島、赤岩、祝津、高島、オタモイ、幸、旭町、長橋
中 部	手宮、錦町、豊川町、石山町、末広町、梅ヶ枝町、清水町、港町、堺町、東雲町、相生町、山田町、色内、花園、稲穂、富岡、緑
南 部	若松、奥沢、天神、真栄、住吉町、信香町、新富町、築港、勝納町、若竹町、潮見台、有幌町、住ノ江、入船、松ヶ枝、最上、天狗山
東南部	桜、船浜町、望洋台朝里、朝里川温泉、新光、新光町、桂岡町、銭函、張碓町、春香町、星野町、見晴町

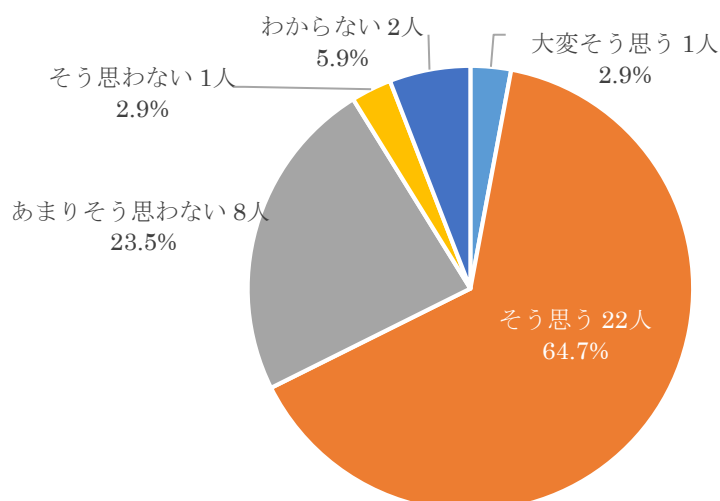
問4 民生児童委員の担い手について 【複数回答】（当てはまるものすべて）

「若い世代の担い手がいない」が70.6%で最も多く、担い手の確保に苦慮されている様子が伺える。「その他」では、地域全体で探しようやく確保しているとの意見があった。



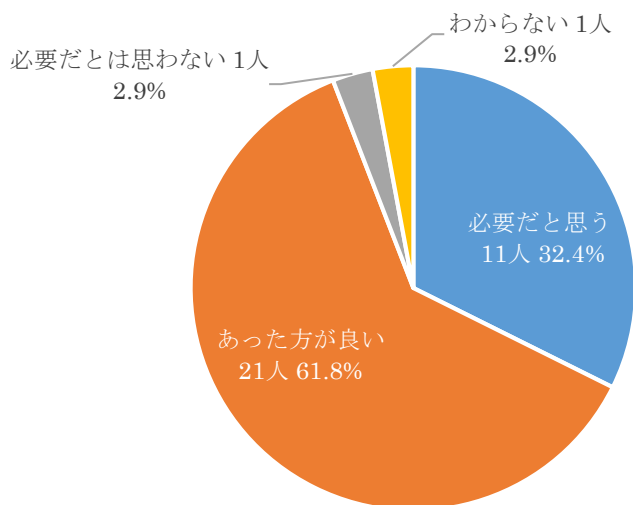
問5 居住地区の住民はお互いに助け合いができているか？ 【単一回答】

「そう思う」が64.7%で最も多く、「あまりそう思わない」が23.5%で次いでいる。



問6 地域住民の支え合いは必要？ 【単一回答】

「あった方が良い」が61.8%で最も多く、「必要だと思う」と併せると支え合いに肯定的な意見は全体の9割を超える。

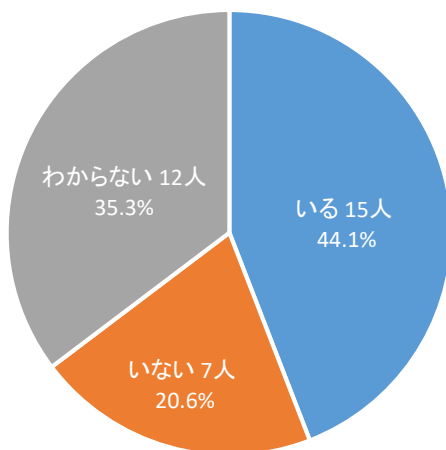


問7 ひきこもりの事例を知っているか？ 【単一回答】

質問にあたって「ひきこもり」の定義を下記のとおり示した。

※「ひきこもり」(厚生労働省の定義)…仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態

「いる」が44.1%で最も多かった。さらに調査により把握できた対象者は25人となっている。

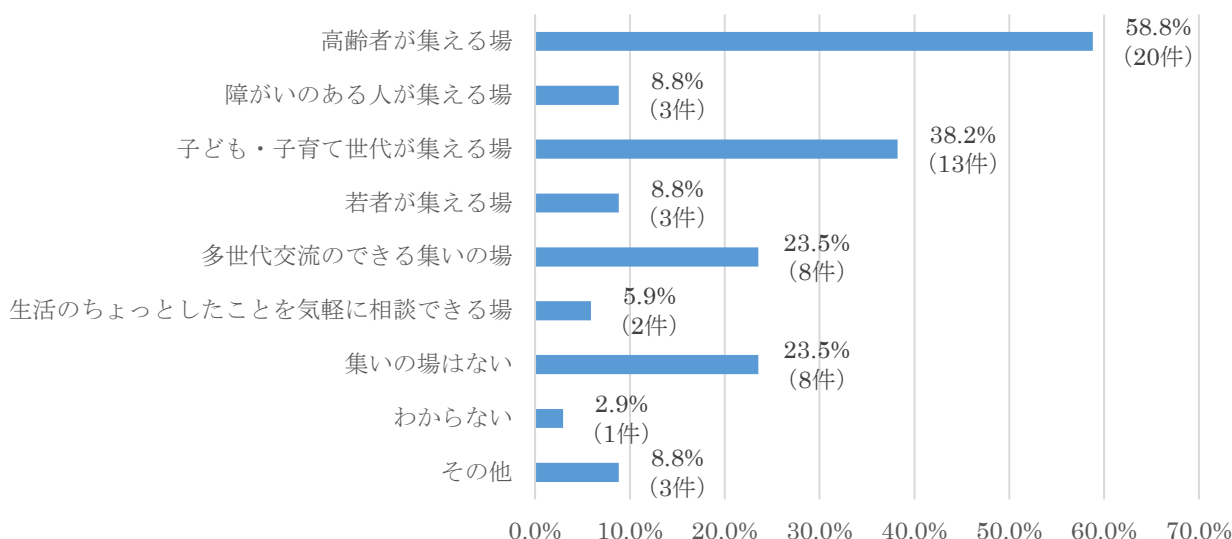


「いる」の内訳

把握人数	回答者数
1人	8
2人	3
3人	1
4人	2
無回答	1

問8 居場所の有無や概要 【複数回答】（当てはまるものすべて）

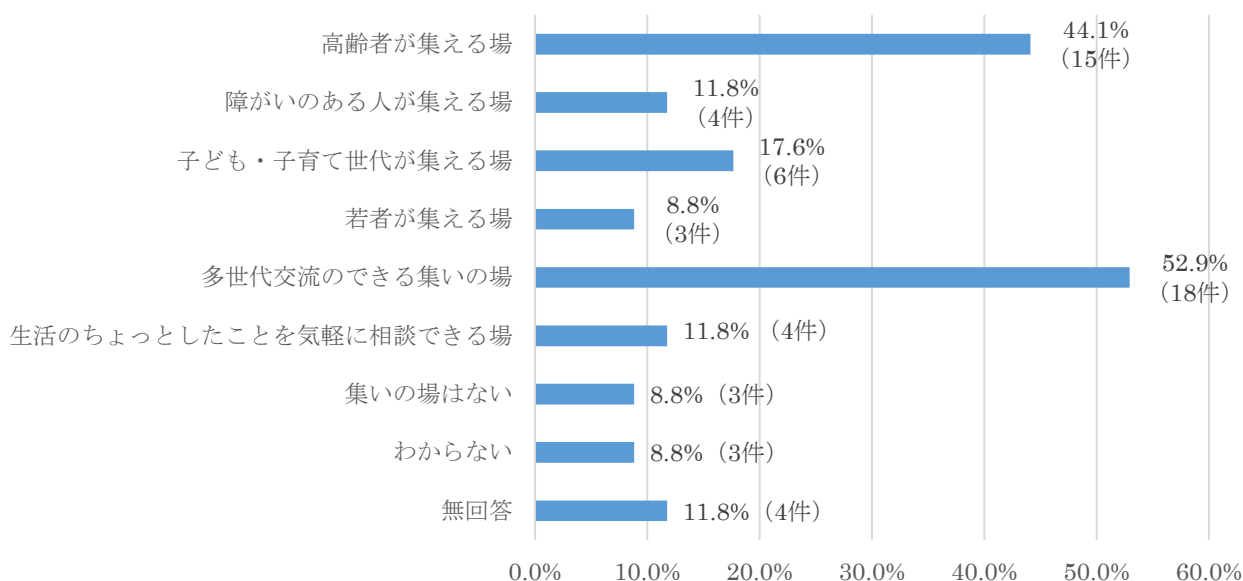
「高齢者が集える場」が58.8%と最も多く、概要も町内会単位の集いの場についての回答が多かった。なかには誰でも気軽に立ち寄れるカフェを町内会館で開催し、おしゃべりの延長で困りごとなどの相談を話すことのできる場を設けている地区もあった。



問9 どのような居場所が必要か？ 【複数回答】（当てはまるものすべて）

必要な居場所を設けるために重要なこと？ 【自由記載】

必要な居場所としては、「多世代交流のできる集いの場」が52.9%と最も多い結果となった。



【必要な居場所を設けるために重要なこと】

- ▶居場所は必要だと思うが、町内会役員（特に動ける女性の中高年）が不足しており、今いる高齢の役員や男性の役員だけでは無理がある。
- ▶町内活動においても、出席参加する住民は決まっている。住民が気軽に参加したくなる様な雰囲気作りは大変難しい。まずは誰もが参加したくなる様な環境作りが大切だと思う。
- ▶子ども、若者が集い楽しむ場が少ない。親子が安心して集れる為には、子育ての相談、アドバイスをしてもらえ人が常に常駐していることが必要では。
- ▶バリアフリーな建物が、地区の中心にないので難しい。通いやすい場所に、コミュニティーセンターのようにできると良いなと思います。今は小さな集まりが点々とあるような感じです。
- ▶あったとしても場所まで行けてないのでは？サポートする人が少ない（不足）介護保険が使えない人たちが大変なのは。
- ▶地区の中心部に居場所があると集まりやすい。高齢者も子供も交流の場がある事は良いのですが、地区中心から離れた所にあっても、集まりには結びつかないの。
- ▶子ども、若者、高齢者という年代（年齢層）を超えた集いの場を設けることが大切。地域に住む人々が互いに顔を知り、交流を図るような取組みを考えていく必要があると思う。
- ▶空き家の利用。町会の利用。
- ▶①施設（会館等）②開催日・時間③使用料④誰が責任者になるのか⑤相談員をどうするか⑥これらをボランティアで引き受けてくれる人が居るか。これらを考えると居場所作りは難しい。
- ▶中心的に行動される方が必要。
- ▶地区の人達が気軽に集まりやすい場所で、どの様な事でも話ができる雰囲気づくりが大切。又、多世代等交流できる場所として、地区の公園・遊び場等の活用も必要かと思われます。
- ▶多世代交流のできる集いの場。町会行事に参加して、地域の多世代交流の集いを通して、高齢者（一人暮らし）、子どもと子どもの親と顔見知りとなり、一人暮らしの高齢者の見守りにつながってほしい。町内に住んでる現職の市役所職員、退職職員がもっと地域に参加して欲しい。
- ▶現在の町内会館を、子供、子育て世代の母親がリーダーになれる催し物が定期的に行える日を設定する事が必要。
- ▶稲穂地区には、居場所として使用（利用）できるものがあると思われる。
- ▶急傾斜地のため、「居場所」が特に必要だと思わない。
- ▶数人で集える場所で、高齢者が自力で歩いて行ける近所で数か所有ると良いと思う。『小規模で茶話会ができる場』
- ▶本来であれば公民館があれば良いと思うが、小樽はないので町内会館が代用されている。しかし、当地区は建設地が確保できず高台に建設したため、特に高齢者には利用しづらい施設となっている。利用しやすい位置に拠点となるスペースを確保し、維持管理が容易で重荷の負担とならないようにすることが重要と考える。

問 10 小樽市の施策について（ふれあいパス） 【自由記載】

◆高齢者（70 才以上）にとってはありがたいと思うが、小樽市の経済的な負担や将来のことを考えると、今後見直しが必要なのは。

◆ふれあいパスは高齢者にとっては有難い制度であるが、市の負担も大きい。この事業を継続していくには、利用者の負担料金を現行 120 円→150 円にしているかどうか。

◆郊外の病院の無料送迎バスとの連携。市内路線バスの小型化。

◆この事業を利用する方々は増加すると思いますが、この制度を利用する方は、健常者等、1 人で行動出来る方が多いと思います。これを利用する年月は限られる時期と思われます。市の思いやりの気持ちを続けて欲しいものと思います。

◆高齢者は、このパスのお陰で外出しやすいのだと思われます。今後、利用者負担の増加等で続けてほしいと思います。

◆身近な地域に楽しめる場所があれば、遠くに外出する必要も少なくなると思う。年間一人限度として内容の見直しも有って良い。元気な人は歩き、必要な人（身体不自由）に使って欲しい。ふれあいパス利用者のアンケートを取っては。

◆確かに事業費の抑制は必要だが、高齢者の外出支援は利用者負担が多少増えても継続はしていくべき。

◆①高所得者にふれあいパスは不要 ②使用量の制限はあっても良い。バスの本数も減り、使いにくいので回数は減っていませんか？

◆市の財政が厳しい中、きついが制限が必要と思う。

◆予算的に厳しいということであれば、利用者負担を増やすか、対象年齢を引き上げる（但し、75 歳より上にする事は、運転免許返納の流れからして難しい）ことも仕方ないかと考えます。

◆小樽市の財政面も考えなくてはならないのですが、「ふれあいパス」は高齢者の健康のためにも継続して頂きたい。利用者の負担（利用料金）も見直しを考えても良いのではないかと。でも、継続を望みます。

◆私もよく利用させてもらってますが、バスの中での会話を聞くと、今回のように一般の方の料金が上がっても、ふれあいパスは上がらないために色々外出できる事が良いと言う方が多いですが、私としてはある程度の見直しも必要ではないかと思います。今回の様にコロナで外出を控えることも出来た訳ですので、安いから用事だけで出かけるだけの生活も大切なことではないかもわかりました。確かに外に出て楽しむ機会も大事ですが、年々対象者が増えてくるので、これからの現状を考えていくことも必要ではないかと思います。

◆従来通りの在り方をお願いしたいと思います。バス利用の高齢者が増加していますが、このような状況に対して使用量の制限をしてほしくありません。小樽市の経済が大変と思いますが、今後も制限することがないように願います。

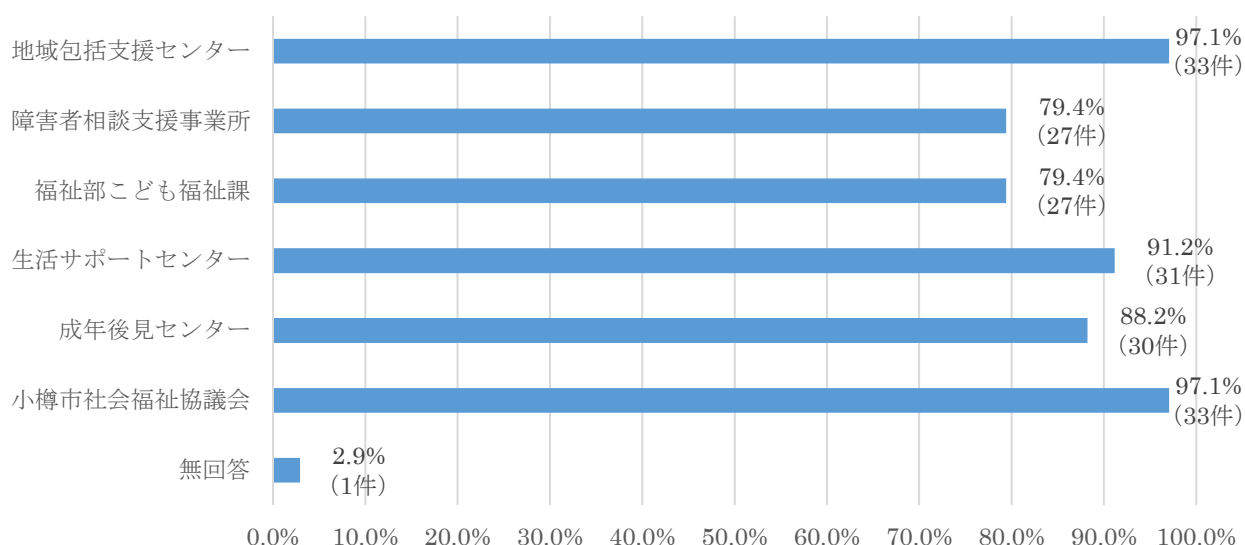
◆高齢者の外出支援策「ふれあいパス」についての意見です。

今後、70歳以上の対象者の増加が見込まれ、利用者負担の増加や1人当たりの使用量の制限を検討するとの事ですが、平成20年度の資料によると、1.利用率の欄には「利用率はわからないが、回数券の販売実績から換算し、1人平均110回」 2.積算方法については「回数券の販売実績から、次年度販売枚数の推計する」 3.現行制度における課題では「現行方式は回数券を販売実績または利用実績に応じて支払いしているため、高齢化の上昇に伴い支払額も上昇する」と記載されていますが、「ふれあい回数券」の販売所に問い合わせたところ、「有効期限はあるが1人が購入する回数券の枚数に制限は無い」との事でした。したがって、上記1～3は単に回数券の販売実績だけを元にした内容で、1人が何枚も購入した場合等は誤差が生じるのではないのでしょうか。実際に「ふれあいパス」の対象者数が何人で、1人が使用した回数が何回か等の追跡調査等を行った現実味のある数値でしょうか？疑問に思います。今後は高齢者が増加するだろうという予想で利用制限や利用者負担の増加見直しは、高齢のため車が無い等で通院するために「ふれあいパス」を利用している方も現実に居り、生活弱者にとっては不利な条件になってしまいます。所得制限を行っている都市も有り、もっと踏み込んだ調査が必要だと思います。

◆小樽は中央バスがコミュニティーバスを兼ねているようなものと思います。企業が成り立たなければ、市がやらなければなりません。かと言って今の小樽市ができるかという点で財政的に無理でしょう。高齢者の健康増進や運転免許返納促進などだけではなく、地域住民の足の確保の見地からも公共交通機関の継続を考えなければなりません。三者が成り立つ接点をさぐるのが市の役目です。継続のためには利用者負担の増加や使用量制限もやむ得ないと思いますが、市の負担軽減だけでは、市民の理解は得づらいと思います。

問 11 小樽市の施策について（相談窓口を知っているか？）（当てはまるものすべて）

「地域包括支援センター」「小樽市社会福祉協議会」が97.1%と最も多い結果となった。

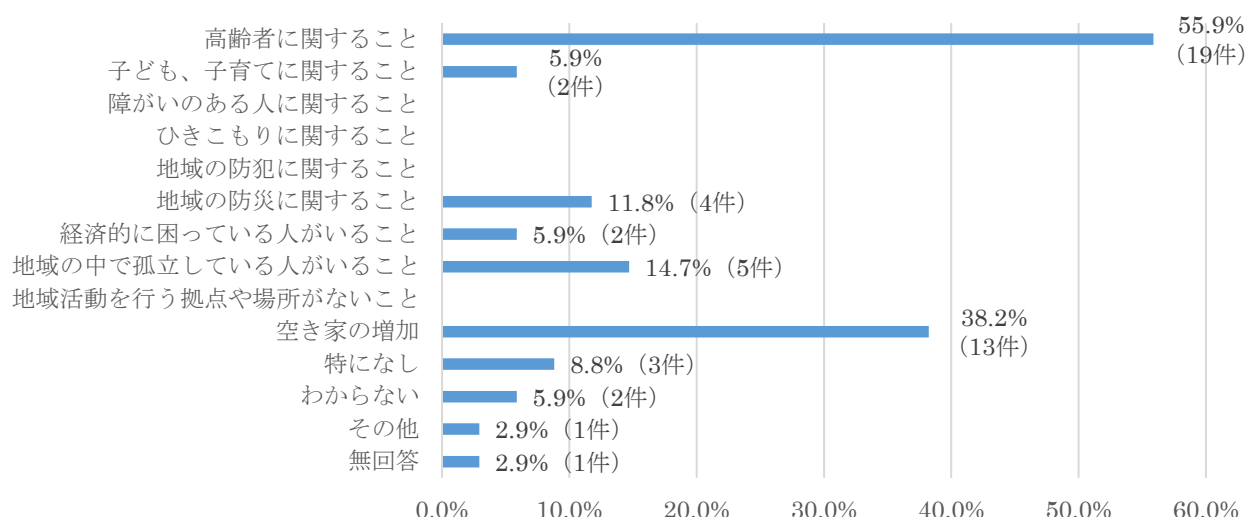


問 12 小樽市の施策について（相談窓口との連携で困ったこと） 【自由記載】

- 今までに困ったことは、一度もありませんでした。どの機関も親身になって相談に乗ってくれ、相談者も納得して新しい出発をしました。相手の立場に立って、面倒でも親身になって下さる姿勢が大切だと思います。そうでない方も、たまにおられますよね。
- 積極的に対応していただけるので困ることはありません。
- 特に地域包括支援センターは相談すると、すぐに対応してくれるので本当に助かります。
- 認知症患者を抱えている家族の方が、認知症である本人が素直に納得して支援センターなどにつなげる事ができるか悩む方が多い。
- 特にないが、これからはもっと横の連携が大事かと思う。
- 過去に相談したことがあり、対応極めて迅速であった。
- 地区の中で事件性が疑われる死亡事故があった時、報道関係各社（新聞、テレビ）に小樽市が「個人情報なので答えられない」と断ったため担当の民生委員に取材が集中し大迷惑だった。
- 機関と連携して解決しています。
- （包括支援センター）対象者が65才以上となっているが、窓口として一番使いやすい。事案によっては50代位から対応出来るようにして欲しい。
- 困ったことはありません。どの相談窓口にも電話しても心よく対応して下さいます。特に包括には感謝しております。
- 朝里・新光地区では、包括支援センターの方の対応が大変良くしていただいていますから大きい問題はありません。過去については、生活保護のことで、担当の課との問題がありました。子供のことで、学校での対応は良かったと思いますが、子育て支援室等の動きが時間かかりすぎと思うことがありました。
- 精神的に情緒不安定のため、地区の方々とのトラブルが多く、地域で孤立した人と地域住民双方への支援

問 13 把握している地域課題（当てはまるもの3つ以内）

「高齢者に関すること」が55.9%と最も多く、次いで「空き家の増加」が38.2%となっている。



〈高齢者に関すること〉

- 高齢者の方が多く足が弱ってきている人も多いです。特に冬は転んで骨折し入院する人もいて、独居老人の方には「気をつけましょう」声かけしていますが、いろいろ心配しています。
- 何といたしても、除排雪の悪さが一番です。
- 坂道が多く、また、ガケや石垣が多く危険が多い。
- 除雪については、一本裏の通りになると除雪回数が少なく、高齢者の負担になっている（道路の除雪の雪山まで上げられない、車が通った後は、固くて除雪できない）若い人が住んでいても、仕事で朝は除雪しないで出ていく等がある。市営住宅の駐車場から裏道を通っていくので、わだちができて固くなる前に、朝早くから除雪していて大変という話は毎年ききます。
- 屋根の雪
- 高齢者が多い割に皆さん元気ですが、集う機会があまりないこと。
- 独居高齢者が増加していることに伴い、除排雪や買い物などに苦勞されている方が増えているように思う。見守り活動だけではなく、具体的な支援策が必要になっている。
- 冬期間除雪が出来ない（お金を払って他の人に頼む）
- 外に出たがらず、人との交流を避ける。
- 単身高齢者の緊急連絡先が、市外・道外となっている場合の対処について、民生委員はどこまで関わるべきか。
- 町中とちがい、車を手離すと買い物等不便になり、市中の老人施設へと転居されていく。
- 一人暮らしの高齢者の認知症に気づくことがあったが、身内の人が認めず、何を言うかと怒られたことがある。認知症の人の交通事故、火事が心配。
- 冬季になると、一人暮らしの高齢者宅の除雪関係が多い。
- 独居高齢者が年々増加し、除雪や、置き雪に苦勞している。又、買い物や、食事の準備等が億劫になる。
- 本人が気付かないで認知となっていたり、人との関わりを拒否して外に出なくなったり、若い人とのトラブルも多々あります。
- 単身や高齢者のみの世帯が多く、地理的にほとんど山坂のため、福祉除雪では公道までの日々の道路確保をカバーできない。冬場ゴミステーションまでのゴミ出しが危険。手近かに除雪を済ませようとするため、隣地とのトラブルがある。

〈子ども・子育てに関すること〉

- 少子化によって、子供同士の交流がない。
- 育児放棄

〈地域の防災に関すること〉

- 学校の廃校によって安心して避難できる場所がない。
- 海岸地区が多いので、防災訓練が重要であるが参加者が減少。
- ①防災意識がまったくない。②高齢者はあきらめムード、災害に合ったらその時だ。③若者は災害がないと決めつけている。
- 小学校、中学校で防災訓練があるが、地域住民も参加して一緒に訓練できたら良い。

〈経済的に困っている人がいること〉

- 経済的に苦しくなって、保護申請する人が増えてきたように思います。
- 学生が住んでいたアパートが下宿に。生保、低所得者が増えトラブルも。

〈地域の中で孤立している人がいること〉

- 特に独居の高齢女性に多い。外に出たがらない。町内の老人会への加入や、カフェに来て皆で話しようと進めてもその気にならない。新聞が2日間溜まっていると、新聞販売所から、その担当の民生委員に電話が来るよう連携している。
- 夫婦で過ごしていて、一人になるとまわりの人との関わりを拒否する方がいて、町会の行事等に誘っていただいても参加しないで家にいる事が多くなっています
- トラブルで子供への不安から転居したり、体調を崩し入院する人もいて困っている。

〈空き家の増加〉

- 生活出来そうな空き家はリフォームして、民泊になっています。また、何十年も経過している廃屋は、増加の一方で危険で生活道路にも支障をきたしている。
- 防犯上よろしくない。
- 空き家が多くなり、福祉除雪では対応出来ない案件が近年多くなっている。
- 空き家の解体をしない住宅の樹木などに、春カラスなどの巣作りにより、周辺住民は苦勞している。
- そのまま放置されている物件が多く近所に迷惑が。
- 10年以上になるが、所有者はわかっているようだが、窓は割れ、草がボウボウ茂っていて無気味である。
- 空き家が放置され、半壊、木が生えてきたりで、以前何度も建築課に問い合わせたが、持主からの連絡がないという事で、そのままの状態が続き、雪の件で困っているようです。
- 古い家屋は崩壊のおそれがあるものの、結局はその処置は所有者の意思にまかせるしかない。
- 空き家の増加により、除雪に困っており生活用道路の確保が大変である。
- 高齢者が多い地区になって来ていますので、色々な事情で家が空き家となって長い年月そのまま状態です。
- 屋根からの落雪で道路をふさいだり、通行人が危険にあったりする。不審者の侵入により火気の心配がある。建物崩壊の危険。

〈その他〉

- 町会活動の担い手の高齢化

問 14 地域福祉を推進する上で必要なこと 【自由記載】

★これからは人と人との密な接触はむずかしくなっていますので、悩み相談など、メール、テレワークの普及に取り組んでいく方向かと思います。・独り暮らしの方などは、個別訪問もデイサービス、ショートステイに行かれ、夕方まで不在の方も多く TEL 確認（が難しい）かと思うことがあります。

★個人情報に関して、非常に注意深くマンションや最近の多室 AP など調査拒否が増えている。福祉課職員さんと、年に数回地域実情を理解する上で同行して頂くことも必要だと思います。

★地域の事、自分の廻りの事に無関心な人が増えているような気がします。どうしたら良いでしょうね。

★制度面等については、丁寧に対応していただき感謝しております。

★活動するなかで、何回伺っても出て来てくれない家があります。そういう時は隣の家などから情報をいただいたりして助かっています。小樽は雪問題などあり、近所とのコミュニケーションがとても大切だと思います。

★まずは、人口流出が少しでも歯止めがかかる様、全国規模の小樽市移住への PR 活動・各町内会単位による住民一人一人の「向こう三軒両隣」見守り運動の推進

★小樽市の…というと広すぎてよくわかりません（課題の解決など）今は、担当地区の小さな相談に対応し、話をしっかりと聞いて受けとめることの繰り返しです。しっかりと話を聞くことが基本ですね。身近な方のことはわかっても、市のことはわからないのですが、イメージとしては市の中でも地区によって必要なことは違いそうですね。アンケートの答えになっていないところが多々あると思いますが、広く声を反映させるという調査があることに素晴らしいと思います。

★世帯調査は集計だけで良いと思う。

★全く違った意味での意見ですが、市の職員を見させて頂くと、いそがしく何十人もの対応している課と、全く動いてない課があり、動いてない課の人たちが、市民の家を交代で訪問（高齢者）してはいかがでしょうか。デスクワークだけでは本当の姿はわからないと思いますよ。大変失礼しました。

★生活課題といっても多種多様で、その都度、委員の皆さんと地域の状況について困ったこと、解決できたことなどの事例を報告し合うように努めている。それを全員が共有することで、担当地域での活動や取組に生かそうと取り組んでいる。毎月の定例会に事例研究を位置付け、学び合うことが重要と考えます。

★市全体の高齢化のみならず、地域の高齢化が進む中で、地域全体で支え合うことが必要不可欠な状況になりつつあるので、お互いに支え合う施設、環境づくりを早急に取り組む必要に迫られていると思います。社会の現況として、65 歳（または 70 歳）までは仕事に関わる状態の中で、民生児童委員の交代（誰でもいいとはならない）が困難である。地域的に買い物難民という実態が多く出現している状況から、市としての対応（市と業者との連携で）を！地域での空き家等を利用しての集える場所を！

★①独居高齢者が多い中で、孤立していて外に出たがらない。②老人会への加入を進めても入りがらない。③訪問しても会いたがらない（居留守）④何か困った事があった時は、連絡するよう伝えているが、民生委員に話すと近所に知れ渡ってしまうと思い込んでいる。⑤訪問しても、その家庭内の事には深く入れない（男性委員は女性宅に入る時は注意）⑥認知がかかってきているが、他人の言うことに耳をかさない。家族とのふれあいも薄れている。中には被害妄想的な独居者も居る。⑦朝里地区では、高齢者（特に独居）に対し、民生委員だけでは解決が難しい時は、東南部包括支援センターに相談している。担当者がすぐに対応してくれている。

★生活上、買い物・通院等交通の不便さを痛感します。（買い物について）・車に搭乗している方、巡回用のマイクロバス利用のサービス・体に不自由をかかえている方、注文の品を届けるサービスや暮らしをサポートするサービスがあれば、この地を離れなくてもいい方がおられるのでは。

★あまり家庭の中に深く関わっていく事が出来ない今日ですが、ひきこもりや虐待等、把握する事が難しい現状ですので、気軽に集えるサロン等があると、話の中から色々状況が見えてくるのではと思われます。又、各関係機関、町内会との連携、地域住民同士のつながり等。見守りネットワークの立ち上げも必要かと思われます。

★地域生活課題一つ一つに地域で連携して解決するしかなく、地域で助け合うことしかない。お金があれば助かることも有るが、お金が無くて助けられないこともある。ボランティアに依存している気がする。

★塩谷サービスセンターの建物が老朽化に伴い、移転せざるを得ない状態ではありますが、塩谷の浜側地区が候補に上がっているようです。全く利用者無視！！自家用車でもなければ高齢者は大変不便です。バスを利用できる国道付近が順等だと考えます。高齢者は、利用者にやさしい地域であって欲しい。

★本当に他方面にわたり迅速に対応して下さり、回答も早くして下さりありがとうございます。

★この何年間の福祉部の活動に関しまして、とても良いと思います。どの課にも言える事ですが、問題が提起された時に対していただいた事に良く話を聞いてほしいと思います。教育委員会にお願いしたい事は、地域子ども教室に関して、色々と現場の声を聞いて検討していただきたいとお願い申し上げます。

★子供が少なくなっていることが心配である。やはり町に活気がなくなる。当然人口も減ってくる。大学があっても、地元就職先がない。当面は、観光産業と地元一次・二次産業のコラボを地道に、産科の維持は絶対必要。